



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第8号

同窓会だより

1989年11月末日
大阪市立大学工学部同窓会
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目
3-138 TEL 06(605)2789
発行人 繁澤 孝

ごあいさつ

同窓会会長 繁澤 孝



本年の第6回評議委員会に於きまして、足立会長の後任としてご指名を受けました。

輝かしき足跡を残された諸先輩方の後を引き継ぐにはいささか不安がありますが、教職員、事務局の方々を始め会員各位のご協力を

得て、さらに一層の発展のため努力したいと思います。

工学部同窓会も今や会員数7,000名に達し、事務局も学術情報交流センターの中に移すと共に、第1号支部として関東支部を発足するところまで発展して来ました。

さて世の中は通信、放送衛星時代を迎え一層グローバルな社会へと広がっておりますが、一方近畿圏に於ては関西文化学術研究都市や関西国際空港、更には大阪テクノポート等、世界に向けての文化情報の発信基地として着実に進んでおります。この様な状況の中で市大工学部の地域社会にはたす役割は非常に大きいものがあり、大学側も実社会で活躍されている会員諸氏の貴重な経験にもとづく生の情報を大いに期待されております。

又21世紀に向かい多様化が進む中で、工学分野に於いても各分野相互にまたがる境界分野の技術開発が進むにつれ、各分野の技術者が相互に情報交換し協力しなければ解決しない問題が多くなってきています。

この様な時期にこそ、共に学んだ仲間が気楽に集い、情報交換することにより次なる展開に資するとともに、実社会の空気を教育の場を通じ後輩達に伝えるのも同窓会の大きな役目と思えます。

更に近年他学部同窓会との交流も同窓会連合会を通じ活発になり、全学的な同窓会へと発展する機運にもありますので、今後とも同窓会活動に皆様方の絶大なご協力をお願い致します。

最後になりましたが会員各位のご健康と一層のご活躍をお祈りしまして新任のご挨拶といたします。

(応物・昭和32年卒・(株)毎日放送 技術局次長)

同窓会の皆様へ

名誉会長 川村 純夫



前号で報告致しました新学科の件ですが、翌平成2年4月より情報工学科および生物応用化学科の開設の届が9月28日文部省で正式に受理され9月30日に記者会見をすませ一応ほっと一息したところです。しかし新学科用の学舎建設、

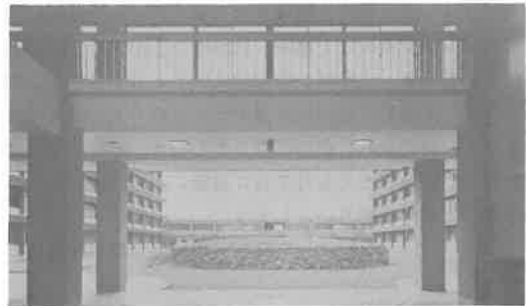
カリキュラムの編成等々多くの問題が残されてはおりません。また4年後には新学科の大学院の開設と、これを我が工学部の新しい高度技術科学時代に応えうる姿にするべく新しい大学院、工学部を進めるための第一歩と考えている所存でございます。9月の研究科委員会で従来の新学科開設委員会に加えて新専攻開設準備委員会を発足させました。

なお、情報工学科および生物応用化学科のための新校舎の増設も関係各位の御力により、11月9日の市議会で承認されました。

規模は約3000㎡で、鉄筋コンクリート造ピロティ方式で6階建、位置は工学部既存棟のB棟とC棟とを中央部で南北に結ぶこととなります。現在すでにボーリングも終り、実施設計が始まっています。竣工は平成2年度末の予定です。

今後とも同窓会諸兄の御指導の程お願い申し上げます。

(工学部長・建築学科教授)



工学部正面玄関より中庭を望む
(1966.10杉本学舎竣工時)

機械工学科に女子学生3名在学中

福田 武人



教室主任をはじめお引受けして半年あまり経ちました。この間の大半を、学部4回生と大学院2回生の進路指導と就職のお世話に費やしてきました。しかし、最近の好景気と先輩の方々のご熱心なるご支援のお陰により現時点では

すでに全員就職先は内定しております。5、6月頃の求人活動のはげしさはご多分にもれずすさまじく、あまりのはげしさに自然休講の講義も出る始末で、教室としても今後考え直さねばならない点として残された程でした。就職内定先としては、相変わらず人気のある自動車とその関連、電機、機械などがあげられますが、次第に多様化し、また、ソフト指向の傾向が見られるようです。一方、大学院進学者が多くなったのも今年の傾向で、定員(12名)をすでに上回った入学予定者が決っております。

さて、在校生に目を向けますと、今年度2名の女子が入学してきました。すでに昭和62年度に1名教室開設以来はじめて入学し、現在3回生となり、諸先輩が学ばれたと同じように「機械工学実験」や「機械工作実習」に男子学生に混じって紅一点ファッションブルな作業衣姿でがんばっています。6月この3名の女子学生とメタセコイア(大学食堂)で昼食を共にし、大学生活について種々話を聞いたところが、機械工学科は何をすることか分らず、はじめは戸惑いもあったようですが、今では結構サークル活動や講義にも慣れエンジョイしてくれているようで安心いたしました。この点も又機械教室のソフト化の一つの表われでしょうか。

以下は各研究室からの短信です。材力研：元木信弥助教授10月1日付で採用。熱研：野邑助教授、西村助手が科研重点領域研究で「太陽熱利用昇温型吸収ヒートポンプ式乾燥システム」を研究中。流体研：東助教授米国スタンフォード大学にて開催された第7回せん断乱流に関するシンポジウムにて講演。設計研：上田教授、繊維機械学会賞受賞。工作研：森元時夫助手4月1日付で講師に昇任。内燃研：渡辺紀彦講師が大阪教育大学助教授に4月1日付で栄転。最後になりましたが、藤井太一名誉教授がご病気のため5月7日に鬼籍に入られました。心よりご冥福をお祈りいたします。

(機械工学科主任教授)

電気工学科の近況

奥本 隆昭



構内の樹木が少し色づき始めました。同窓会の皆様にはお元気で活躍のこととお喜び申し上げます。御存知かとは思いますが、この秋10月20日から3日間キャンパス内で電気関係学会関西支部連合大会が開催されました。夏以来この

準備のため山下一美教授以下各教員は多忙の毎日でしたが、昨年からの教養の学舎、専門1号館、講堂など改装が行なわれた教室と、田中記念館、工学部学術交流センターと立派な施設を十分に利用して何とか無事に会を開くことができました。このとき北浜安夫先生、奥田滋先生もこの会に出席され、お元氣なお姿を拝見いたしました。

さて、電気工学科の近況ですが、本年3月をもって安藤慶一教授が定年退職、名誉教授になられました。4月からは大阪産業大学で教鞭をとっておられます。電気計測工学講座は藤井知生教授が兼任されています。

また、4月から情報システム工学と言う第7番目の研究室が誕生いたしました。山下一美教授が兼任されています。この講座には旧原子力研究所からお二方がこられましたのでご紹介致します。

三谷七郎助教授、1953年大阪大学理学部物理学科卒、現在「電力工学I」と「原子力工学」の採業を担当していただいています。

中川吉郎助手、1965年大阪市立大学理学部物理学科卒、1967年同修士課程終了、1975年理学博士。

以上のように当電気工学科は益々充実してまいりましたが、9月30日新聞に発表されましたように、来年4月に情報工学科が新設されます。このときには電気工学科は5講座となり、情報工学科は4講座でスタートすることになります。

学生の就職動向としてはやはり電気系メーカーが多く他の分野に希望する学生は数える程度です。あらゆる分野の企業が電気系の技術者が必要な時代になっているとき、これはちょっと困った現象のようにも思います。求人こられる会社の熱心さに出会う度に同窓生のご活躍が浮かびます。皆様のご健勝をお祈りするとともに、なご一層のご支援を賜りますようお願い致します。

(電気工学科主任教授)

応用化学科の近況

太垣 和一郎



ことは雨の多い年でしたが皆様にはご健勝のことと存じます。こちらも皆、概ね元気です。先輩教授の井本稔、熊田誠、井本立也の三先生はお元気ですし、大饗茂先生も頸椎の手術をされましたが今は回復されて元気です。現職の

大津隆行先生も一時体調を崩されましたが今は平常に帰って御活躍中です。その他の教員も無機工業化学講座の澤井圭二郎助手が渡米中のほかは皆変わりありません。

さて本年は応化にとって激変の年であり、これからの数年、さらにいろいろの変化が予想されます。昨年の便りで予告しましたように、原子力基礎研究所の廃止に伴い、蘭頭健吉教授、椎名教助教授、真野倅一講師、笠井佐夫助手を有機工業化学講座のスタッフに迎え、それまでのスタッフの太垣和一郎教授、幸塚正児助教授、玉垣誠三講師、荻野健二助手が新しくできた生体機能化学講座に移り、応化はそれまでの5講座から6講座に改組されました。しかし改組はさらに進んで、本年9月29日、学長の記者会見で発表されましたように、来る平成2年4月には本学工学部に2学科が新設され、その一つの「生物応用化学科」（4講座）には応用化学科の6講座の教員25人のうち10人が移ることになっています。それに伴って応用化学科は4講座に改組されます。心配なのは応化の弱体化ですが新学科の4講座と緊密に協力してゆきますので従来に倍増した力を発揮できるものと確信しています。さらに近い将来、新学科とともに講座増を果たして博士課程を持つ工学部における強力な化学系2学科にしたいと考えています。ぜひ同窓生諸兄の応援をお願いします。

学生に21世紀は化学の時代だと繰り返しています。彼等への絶大な御援助をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈ります。

(応用化学科主任教授)



新学科学舎建設予定の中庭の現景

土木工学科の近況

小田 一紀



卒業生の皆様、お元気で活躍のことと存じます。普通ならば6年に一度の割で回ってくるはずの教室主任の仕事が何かの手違いで4年目で回ってきました。卒直に申しあげてあまり楽しい仕事ではありませんが、本年は世の中の好

景気を反映してか教室の行事もすべて順調に運び、特に学生の就職については嬉しい悲鳴をあげさせて頂きました。就職といえば、4年生の約4/5が土木系以外の企業に採用内定したことが特筆されます。何れの大学を問わず、技術系学生の技術系ばなれの傾向はここ当分続くものと予想されますが、いかに対処すべきか、各大学とも対策に苦慮しているところです。

次に、教室のトピックスを拾いあげてみましょう。人事面では、本年4月に構造工学講座の小林治俊講師と河海工学講座の角野昇八講師がともに助教授に昇格し、教育と研究の陣容が一段と充実してきました。もう一つの話は、工学部始まって以来の外国人教員の採用でしょうか。この4月から日系ブラジル人の Miss, Luiza Hiroko Ichinose が橋梁工学講座の助手に就任しました。日本語を含む7ヶ国語を自由に操る彼女に今後の国際的な活躍を大いに期待したいところです。

昨今は何れの世界でも国際交流が活発ですが、土木教室も例外ではなく、前述の Miss, Luiza 以外にもタンザニアの Univ of Dar-es-Salaam の Senior Lecturer である Dr. Burton Lunogelo Mhamilawa Mwamila を客員研究員として橋梁工学講座に迎えました。また、河海工学講座にも上海の華東師範大学の李身鐸助教授が客員研究員として滞在しています。その他、大学院生として中国留学生の葵敬君が土質工学講座に、研修生として中国杭州の浙江大学の黄一華講師が橋梁工学講座にそれぞれ在籍しています。一方、教室からの海外出張も相変わらず盛んで、昨年7月からの小林講師（現助教授）の英国ランカスター大学留学を皮切りに、鬼頭助手（ニュージーランド・オーストラリア）、貫上助手（タイ）、眞嶋助手（米国）、東田講師（米国）、小田教授（中国）、高田教授、大島助手（ブラジル）、西村教授（英国・スウェーデン）および中井教授（英国）と続きました。

終りに、園田教授が大阪工業大学の堀川助教授と一緒に「輪荷重の反復作用下での道路橋RC床版の低サイクル疲労特性」に関する研究で今年度の土木学会吉田賞を受賞されたことも嬉しいニュースとしてお知らせしておきます。皆様のご活躍とご多幸をお祈り致します。

(土木工学科主任教授)

応用物理学科の近況

西村 仁



同窓の皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。長い間、人の動きの少なかった応用物理学科ですが、平成時代に入って、俄に動きがでてまいりました。本年4月1日、旧原子力基礎研究所から、勝俣五男教授、

広重昇助教授、増岡俊夫講師、三村三木夫助手の4人をお迎えして、プラズマ工学講座が新設されました。これで応用物理学科は5講座体制となりました。新しい講座構成は次表のとおりです。なお学生定員は学部33人、大学院前期博士課程（修士）10人、後期博士課程5人です。学生の就職状況は、先輩諸氏の御活躍にも支えられて大変好調です。

講座名	教授	助教授	講師	助手
レーザー工学 および 電子物理学	村井 昭		美馬 宏司	藤井 康夫
光物性工学	西村 仁	森 雄造	石黒 英治	北田 忠義
量子物性工学 および 物理計測学	大倉 薫	笹沼 道雄	人見 宗男	中山 正昭
プラズマ工学	勝俣 五男	広重 昇	増岡 俊夫	三村三木夫
数理工学	横田万里夫	谷本 脩 曾我部 伸		串部 宏之

なお、本年10月1日付けで、鶴飼正二助教授が東京工業大学情報科学科教授に栄転されました。鶴飼先生は、昭和48年4月1日から16年余の長きに亘って本学に在籍され、昭和61年には大阪科学賞を受賞されるなど、研究と教育の両面で力を尽されました。感謝の意を表しますと共に一層の御発展をお祈り申し上げます。

応用物理学科創設時の教授で昭和37年に京都大学工学部に移られました大東俊一元教授が本年春、勲二等瑞宝章を受章されました。又同時期に戸村正夫名誉教授も勲三等旭日中綬章を受章されました。心からお慶び申し上げます。

最後になりましたが、皆様には技術革新の大きなうねりの中での御活躍、御苦労も多いことと存じます。御自愛の上、一層の御発展をお祈り申し上げます。

(応用物理学科主任教授)

建築学科の近況

多胡 進

本年も早や、師走の頃となりましたが、皆様にはお元氣にご活躍の様子を折々にうかがい喜んでおります。

建築学科では、本年3月末に、長年にわたってお世話になりました建築防災及び建築材料学講座の下鳥正孝先生が定年退職で引かれまして。建築計画及び建築史講座の福田晴虔助教授が約一年にわたって近世劇場建築史について在外研究を行っていたパドバ大学（伊）から9月に帰着しました。建築環境工学講座の成瀬哲生教授と大倉良司助手は、8月にデンマークで開かれた熟環境工学の国際会議に発表出席しました。本年度は、建築構造学講座の村上益美助手が本学から工学博士の学位を授与されました。

研究室の活動は、技術の高度化を反映して、新しいテーマと展開への取り組みや準備で、教員は忙しく元氣に過ごしています。大学の実績となる日が楽しみです。これらは、つぎの時代に対してなきねばならない用意、とくに大学院教育の強化充実などに結実するように図っています。

学生諸君につきましては、4回生は全般として専門分野からみてオーソドックスな技術分野に進路をとり、現在卒業レポートや卒業設計に一生懸命に励んでいます。3回生以下諸君につきましては、本年は、学科において大学教育及び建築学の「履修の手引き」の冊子をつくって、大学生活などについて話し合いながら、実力の函養を図っています。彼らは、なかなか元氣です。これらは、工学部に2学科が新設されることや、大学が将来に対する長期計画を策定したことなどと無縁ではなく、学科が将来に備えるための基礎です。また、1・2回生には女子学生が数名ずつ在学しており、時代の流れが感じられます。大学院生は本年度は前期博士課程の2回生が4名で少なかったのですが、新しいテーマを解決して修士論文を書くべく懸命に研究しています。

来るべき時代へ強い基礎力を持った実力派が育ち、やがて個性ある大きな技術者に成長するものと期待しています。

日置興一郎先生、三輪雅久先生の両大先生がしばらく前に還暦を過ぎられ、大阪市立大学における学究生活に一つの節目を迎えられます。

いつの時代もそうですが、学科も伝統を継承しながら、発展させ続けています。同窓会の皆様方も何かと多忙の折りでしょうが、ご指導のほどをお願い申し上げます。

(建築学科主任教授)

来春母校に増設される新学科の概略

来春4月、母校に新設される情報工学科と生物応用化学学科の特徴、講座名および研究分野等の概要を、受験生用のパンフレットからの抜粋によってお知らせします。なお定員はいずれも15名で、工学部全体としては8学科265名となります。

情報工学科

Department of Information and Computer Science

— 情報化社会：21世紀をめざして —

私たちの社会は、前工業化社会、工業化社会、脱工業化社会と発展し、21世紀に向かって情報化社会として成熟しつつあるといわれています。このような社会の発展にともない、情報を中心とした科学技術を発展させることの重要性は広く認識されているところです。情報工学科は情報社会に必要とされる工学的研究を展開し、その研究者や技術者を育てることを目的として平成2年4月に新設される学科です。

1. 学科の特徴

情報化社会への展開にともない、特定の分野に限定された専門家でなく、広い視野を持ち、コンピュータ情報処理技術を基礎とする柔軟な応用能力を持った人材の育成が期待されています。情報工学科はこの要請に応えるべく、数学やコンピュータの基礎教育に力を入れ、情報処理関係の広範囲の問題に対する適応能力を養成し、未知の問題に遭遇したときに、自らの力で解決していこうとする自主性と独創性を養うことを目的としています。

2. 学科構成と研究分野

情報工学科は、情報システム工学講座、情報処理工学講座、知識情報工学講座、情報ネットワーク工学講座の4講座で構成されています。各講座は以下のようなテーマについて多様な研究活動を行います。講座数、学生数など小規模で発足しますが、将来、既設学科と変わらない教育・研究体制に充実するよう計画しています。

情報システム工学講座

従来の計算機システムにとらわれない、パイプライン処理、並列処理を含めた新しい計算機アーキテクチャの開発および生理学、生物学などの研究成果を基にしたバイオ・サイバネティクスに関する研究・教育。

情報処理工学講座

プログラムやテキスト等の記号データの他に、音声・画像などのマルチメディアの情報処理、伝送、蓄積についての一般的原理を解明して、その体系化を行うと共に、その数値的解析及び計算機シミュレーションに必要な数学的基盤・原理などに関する研究・教育。

知識情報工学講座

自然言語や画像の理解など人間の行っている知識情報処理を計算機上に実現するために、知識表現、推論、学習などの基礎研究、脳のもつ処理機能である並列、分散処理を利用した処理の効率化、エキスパート・システム、機械翻訳などの応用研究。

情報ネットワーク工学講座

広帯域総合サービス・デジタル網やローカル・エリア・ネットワークなどの情報通信ネットワークや並列処理計算機中のプロセッサ間の情報交換などに関連した研究・教育を行う。すなわちネットワーク構成、データ交換方式、ネットワークの能力評価、並列処理計算機中の情報交換アーキテクチャなどに関する研究・教育。

生物応用化学科

Department of Bioapplied Chemistry

— 新しい時代を拓くバイオテクノロジー —

近年の科学・技術の進歩と変化には目をみはるものがあります。しかし、まもなく到来する21世紀を想うとき、この目ざましい発展はほんの序曲にすぎません。これをバイオテクノロジーの分野で見ますと、生命現象に対する分子レベルでの理解が進むにつれて、生命のしくみを利用する新技術開発の道が開かれ、その結果、関連工業の姿は一変すると予測されています。

たとえば、タンパク質工学の成果を利用する酵素の改質によって、現在の工業では望めない効率の高い工業プロセスが生まれます。また、生体膜の機能を代替できる工業用膜材料の開発によって、現在の工業生産工程は大きく変わるでしょう。さらに、脳と神経の機能の利用は現在の技術革新の内容を決定的に転換するものと期待されています。そして、これらの結果は人類の永遠の課題である省エネルギー・省資源・無公害の理想的生産工業の出現や都市地域での生活環境の浄化と保全につながってゆきます。

新しい時代を拓くバイオテクノロジー。洋々たる将来をもつ若き諸君にふさわしい分野です。是非、参加されて、21世紀の演出者となることを期待します。

1. 学科の特徴

生物は、物質やエネルギーの代謝と伝達などに関して大変優れた、精緻な機能をもっています。当学科は、この生物の機能の応用と合成に関する工学分野の研究を遂行すること、同時に、この分野における新しい技術・研究開発を創造的に展開できる研究者・技術者を育成すること、を目的としています。そして、1) 幅広い基礎学力の習得 2) 基礎学力に思考力・応用力・創造力を融合した研究能力の開発に努めています。

2. 学科構成と研究分野

当学科は当面4講座(研究室)、教員12名で構成されています。各講座の現在の研究分野テーマを3つずつ示すと以下ようになります。新設学科なので、当分の間、応用化学科の協力を得て、既設学科と何ら変わらない体制を組み、活発な活動を開始しています。

生物工業化学講座

①生物発光の機構と応用、②酵素の改質、③生体類似膜等の研究。

生物化学工学講座

①生理活性物質の分離精製、②バイオプロセス工学、③バイオリクター等の研究。

生体機能化学講座

①人工酵素の分子設計、②生体類似精密有機合成、③生化学反応機構等の研究。

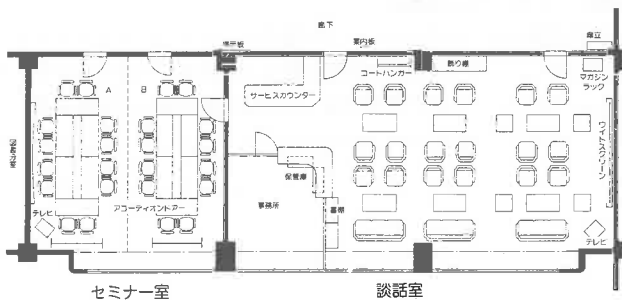
生体材料工学講座

①天然高分子の化学とその利用、②機能性高分子の合成、③高分子膜等の研究。

同窓生の活用を待っている

工学部学術情報センターの 平面図

セミナー室の利用申込みは、当センター事務室(06-605-2789)へ事前に連絡下さい。



工学部同窓会関東支部だより

片井 振武

日頃より皆様方からの当同窓会の活動に多大なるご支援ご協力を賜り、回を重ねるごとに充実して参り盛大裡に楽しく過ぎて来たことを心より感謝して居ります。本年は当同窓会発足以来5年目の節目に当り皆様方の格別のご厚情とご支援をいただいて素晴らしい会合を持ちました。

今回の第5回支部総会には新工学部長の川村先生(建築工学科)と大津先生(応用化学科)をご招待申し上げ、女性も数名の方が意欲的に参加され、総計80名となり盛り上った雰囲気の中に盛会裡に終始致しました。

◎会場は沖電気工業㈱の目黒クラブで、10月21日(土)の午後5:00から8:00に催しました。

川村、大津両先生にはご多忙の中遠路わざわざご参加いただき、工学部の現状や将来計画などのお話を賜わり、加えて私達同窓会に対する温かい数々の激励のお言葉を頂戴いたしました。

そして「バイオテクノロジーによる農産物の改良と現状」と云うテーマで農林水産省OBの古賀龍史氏に経験談を交えて大変面白く為になる講演をしていただきました。

その後の福引きには、昨年に続いて各企業や個人より豪華商品の寄贈を多く受け賞品抽選会は参加者の顔をほころばせて大きな盛り上がりをつくってくれました。

私達の同窓会は変化を求めていく意味で毎回の会場を変えていき、講演会、そして種々のイベントに特徴を求めてユニークな会合を皆で懸命に盛り上げていこうという主旨で努力中です。川村工学部長の乾杯の音頭で懇親パーティがスタートし今回は建築工学科61年卒の中村志奈子さんに司会を担当して貰い懇親パーティ席上出席の女性会員にスピーチをしていただく等、華やかななかに素晴らしい雰囲気が盛り上がりました。充分なる歓談のうちに友好を温め確認し会って、逍遙歌、桜花爛漫のエルの中に楽しい会合を閉じました。

いつも乍らですが皆の感想は「やはり参加してよかった昔の故郷へ帰った気持で、気遣はずに心開いて話合えた年1回のたなばたさんでなくもっと何か……」という声も出て、一過性の同窓会運営の体質を改善し継続的かつ充実した同窓会運営を目的として広く会員各位の協力支援を得ながら積極的なユニークな同窓会に発展して欲しいと願っている。

関東支部の組織概要

役員	名誉会長	田中 康弘 (機20)
	会 長	橋本 雅之 (電36)
	副会長	寺奥 博 (機34)
		中村 俊雄 (建33)

売切れ近し!

「大阪市立大学百年史一全学編」

残り部数が僅少! 当分、再発行の予定はありません。

ご購入ご希望の方は今すぐお申込み下さい。

- 頒布価格 9,000円 (ただし送料を含む)
- 申込方法 郵便はがきでお申込みください。
(百年史全学編希望・住所・氏名・電話番号を記入)
- 申込先 〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学後援会…☎ 605-2081
(郵便振替口座 大阪1-2295)
- 代金振込 申込と同時に上記口座へ振込んで下さい。
- セット申込 「部局編」もご希望の方は「百年史セット希望」と書きセット価格14,000円を振込んで下さい。

大学史料室開設のお知らせと関係資料収集へのご協力をお願い

欧米の古い歴史を誇る諸大学には、大学博物館またはそれに類するものがあり、各大学の歴史に関する書類とか、各種の実物が展示されています。わが国でも各地の伝統ある大学において、大学史料室または史料館が開設され、大学史に関する史料を収集し、小規模ながら展示も行なわれるようになって来ました。母校においても、本学の歴史に関する各種の資料を収集、保管し、大学内外の関係研究者の利用に供する目的から昨1988年9月に、「大阪市立大学百年史」の編集・執筆の過程において収集した資料類を基礎にして大学史料室が開設され、すでに若干のものが寄付されております。

卒業生(またはその御遺族)の方々で、適当な資料(たとえば卒業証書、制服、制帽、写真、その他)を所持され、それを大学史料室にご寄付下さるご意向をお持ちのさいは、ぜひご連絡いただければ、まことに幸いです。

◎連絡先 郵便番号 558

大阪市住吉区杉本3丁目3-138

大阪市立大学史料室

電話 06-605-2027(直通)

開室時間 月曜～金曜 9:30～16:30

支部通信

副会長 竹中 清和 (電22)
〃 茨田 隆 (土34)
〃 山内 隆夫 (応化29)
〃 谷村 真一 (応物37)
総事務局 片井 振武 (機22)
会計担当 中村志奈子 (建61)

支部所在地・連絡先

〒223 横浜市港北区日吉2-19-8

片井 振武

TEL 044-64-3236

FAX 044-62-7151

福村直樹 (応化修47)

TEL 03-361-2738

FAX 03-361-1875

新しく関東地区に勤めた同窓生の方はお電話下さい。

☆チョッピリ同窓会論

①共通の学び舎で青春時代を過ごしお互い励まし合い共に学び遊んだ仲間。「学問の故郷」「心の故郷」を心の據りどころとして、いつも当時の気持になって率直に心開いて打ちとけられる場。

②最近の情勢としては国際化情報の過剰と高度化社会機構の複雑化とくに今年は戦后史上まれに見る政治の大変革期と言われている。そして地球が小さくなって、内外ともにあわただしい時代。この激動の変革の時代に自分丈の狭い殻に閉じこもっては社会の進歩から取り残され押し流されて了う。個人の価値観は多様化し生活スタイルもめまぐるしく変化し明日の VISION を見出すことは不可能になって来ている。まさしく激動の時代といえる。

③横割的発想が求められ、年令を越えそして職業種を越えて同窓生同志の相互の親睦をはかり乍ら、情報交換、ネットワークの必要が強く感じられる。同窓会は新しい知識の取得や新たな人脈づくりのきっかけづくりの場となり、言うなれば素晴らしい情報蒐集の場であります。同窓会に対する思いと要望は強くなって来ており同窓生の中には良き人脈づくりの場として、又ビジネスが生まれる場として、うまく情報交換している会員も多いと聞いている。身近かに同窓会というこんな素晴らしい人脈ネットワークがあるということ(情報源として、手取り早い交流の場として異業種交流の意味も充分含めて)を見直すべきと思う。私がいつも野村総研や三菱総研の同窓から教えられている情報リソースは常に極く身近にあるといふこと。まさしくこれであると思っている。

④母校工学部との連撃をより深め強める等同窓会運営活動を拡大活発化していき度い。現在の年一回の同窓会総会という一過性から前向きにより発展させる為に、同窓会の新しい企画、例えば年1回の同窓会総会とは別に同

窓生の中の多士済々の経験者や実力者の研究発表体験発表や講演をお願いするとか、優秀設備の見学会や又趣味の分科会が生まれても良いのではないと思われる。私は音楽好きだから皆と一緒に何か音楽で楽しい集いを企画出来ないかなあと希んでいます。せっかくの私達の同窓会であるのだから。理想として NETWORK の為の機関誌発行が早く出来ればとも思う。積極的なアイデアや意見を期待している。(機械・昭和22卒)

工業部関東支部応用化学科第1回同窓会報告

応用化学科関東支部事務局 福村 直樹

平成元6月23日金曜日に、18時30分から21時迄の時間、巢鴨近傍の三菱養和会巢鴨スポーツセンターにて大阪市立大学工学部応用化学科(関東地区)第1回同窓会が開催された。

タイホー工業(株)の山内隆夫氏(S29卒)、大日本インキ(株)の山本実氏(S31卒)、三菱瓦斯化学(株)の前野保氏(S34卒)、チッソ(株)の森嶋章氏(S36卒)、ダイセル化学工業(株)の近藤義之氏(S37卒)、三共(株)の戸田康生氏(S38卒)、日本ヒドラジン(株)の平井忠浩氏(S39卒)、宇部興産(株)の池田嘉作氏(S41卒)、宇部興産(株)の楠木喜博氏(S42卒)、および出光興産(株)の杉岡泰蔵氏(S46卒)の方々を発起人として、何回かの会合打ち合わせの後に実行された。御多忙中にもかかわらず、尽力された発起人の方々の努力の結実として、第1回の同窓会は、参加者75名と言う盛況の内に、取り行なわれた。

当日、山内隆夫氏を関東地区応用化学科同窓会の会長に選任し、また御快諾頂いた。さらには、御来賓として井本稔先生にお越し頂いた。

井本先生を中心にして、先輩、後輩、同輩の縦横の繋りの中で賑やかな談笑の花が開いた。

母校卒業以来年月を経ていても、顔見合わせれば忽ち当時の有様が彷彿とし、互いにニックネームで呼び合い、肩を組む。近況を語り、友の消息を知る。

母校を同じくすると言う一点、気安く胸を開けるのは、実に同窓会の故である。

2時間半と言う時間もあっと言う間に経過して、3年後に第2回目の同窓会を開くことを約束して、名残惜しく散会した。

(応用化学科・昭和47年修卒・福村国際特許事務所)

大阪市制100周年記念

大阪市立大学日中友好学術登山隊に参加して

福山 昇二

帰国してから5ヵ月が過ぎようとしている。われわれの隊は、3月5日に大阪を出発し、4月21日に初登頂を成しとげ、5月19日に戒厳令直前の北京を後に帰国した。この2ヵ月半の間、特に印象に残ったことを書いてみたいと思う。

3月11日、チベット自治区の区都「神の地」ラサ（標高3700M）を出発したわれわれのジープは、第二の町シガシェ、そして、シガールへと向かった。山肌を削ってつけられたジグザグの地道を、車はエンジンのうなり声とともに進む。5000Mの峠を三つ越え、そして、平地では80km/時を越える猛スピードで広大なチベット高原に砂煙の道をつけて突っ走る。雄大なチベット高原の風景を何としても記憶に留めておきたいと思うが、高度の影響か睡魔がこれを妨げる。憧れのチベット高原は心ならずも夢の中であった。

3月22日、高度順応が遅れている私は、今日は何としてもBC（ベース・キャンプ）予定地のパロンまでいかなければならない。氷河の末端の登りにかかるころから、高所経験のない私は、呼吸が苦しく、体が思うように動かない。情なくて涙がでる。根性、気力というものは肉体的なうらづけがあってこそ発揮できる。こんな事では、これからの登山活動はどうなるだろうと精神的にもまいりかけていた。そして、同行のパーティから、かなり遅れて、何とか乗越しに登り着いた。このとき眼前に広がった光景を忘れることが出来ない。カブラ氷河は蒼く輝き、左手に8000M峰のチョー・オユエがどっしりと腰をおろしている。そして、その北をえぐるパロン氷河の奥に、われわれの目指す四光峰（7308M）が堂々とそびえている。やっとヒマラヤに來たんだなと感激する。



カブラ付近より四光峰を望む

4月9日夜、私は高度6100MのC1（第1キャンプ）に1人でいた。C2の設営と荷上げを長時間行ったパーティはC1で休憩した後、ABC（アドバンス・ベース・キャンプ）へと下って行った。明日、上部のルート作業を行う別のパーティが登ってくる逆このテントに居るのが私の仕事である。C1は四光峰の内院（と我々と呼んでいる）の傾斜の緩くなった雪原にある。四つの峰々に囲まれていて、一番高いのが四光峰である。こんな夜は熱燗が一番だなと思いつつ寝袋に足を突こんでコーヒーを飲む。思えば、この計画を中心になって進んでいたTと天王寺の屋台で飲んだ酒が、私を登山隊に参加させるきっかけとなった。この登山期間中も、中年男の私に何かと気を遣ってくれるTの気持が嬉しかった。夜半から風が出てきて地吹雪となりテントを揺さぶる。私は、一人、ヒマラヤの夜を楽しんだ。そして、ここが私の最終キャンプ地となった。



C1にて筆者（'89.4.8）

4月21日、BCのトランシーバーの電源は登頂の報告を待たためいたままである。われわれは順調にルートを伸ばし、一次、二次の攻撃を試みた。しかし、処女峰スー・クワン・リー（四光峰）は二度のプロポーズを拒み、やっと三度目に若い二人の隊員を受け入れてくれた。歓声がおこり、市制100周年記念に花を添えることができた。

最後に、常に隊の先頭に立ちパーティを引っぱった小倉裕史君は応用物理学科、そして、見事登頂を成しとげた尾形達也君は電気学科卒業である。

（応物・昭和50年卒・尼崎市公害監視センター）

生き残ったメモリから

中野 稔



卒業したのが昭和20年9月ですから、殆ど半世紀が過ぎ去ったこととなります。すでにかなり欠落したメモリをチェックすると、豊橋での1年にわたる勤労動員生活が生き生きとよみがえってきます。残念なことに、学業についてのイ

ヴェントはとっくに欠落したようです。体操（今様で言えば体育）の時間にえんえんと海軍体操をやらされ教室へ戻る階段があがれなかったことぐらいでしょう。昭和19年春都島工専電気科2年生の約半数が東洋通信機豊橋工場へ動員されました。残りは田辺の早川（現シャープ）の工場へ。はからずも、親元を離れ、遙か豊橋の地で1年間にわたる合宿生活を送ることになった19才の青年達をまっていたのは、戦時中とは思えない明るく楽しい生活であったと覚えています。これは、この動員が、我々にとって『若者宿』の役割を果たしたからかも知れません。豊橋郊外の田園の中で、戦争も飢えも傍観して自由気儘な生活ができました。焼い弾の雨の中でバケツですみかを守ったのも、タバコを覚えたのも豊橋でした。

1995年は我々の50年、腕白達よ、豊橋で会いませんか。

（電気・昭和20年卒・大阪電気通信大学工学部）

「市立大学理工学部の誕生」

坂内 幾男



この原稿を書こうと思っていた時に、同窓のU氏から電話が掛って来た。「都島工専が市大に昇格するように運動していた時のことを君なりに思い出して教えて欲しい」当時の事の座談会を開くとのことだった。

占領下の渾沌下に新学制が施行される。都島工専を市立大学の理工学部に昇格させるように嘆願するため、それから我々の大車輪の活動が始まった。元より初めての経験である。学校当局も、推進のための執行部も大いに迷ったことであつたと思う。私自身はその頃、身体を悪くしていて、直接の運動には携はれなかったが、市民の署名集めに、天六や、上六の街頭に立って呼び掛けに声をからした。また何よりの思い出は全学あげての血判の請願書作りだった。先ず委員長が壇上で指を切り流れる血で血判を捺したのを皮切りに、全学が墨書し、全員が指を切った。今から考えれば、少々野蛮に思えるが戦争下に育った我々には、それ程の抵抗もなく、むしろ誠意の披歴と思っていた。市会への陳情を繰り返して、市大理工学部が誕生した時の、皆の嬉し涙の顔を今想い出す。

（建築・昭和24年卒・㈱坂内建築設計事務所代表取締役）

「善意の風が」

辻中 昭一



扇町公園に散歩に出ると、ここでは思いがけない事が目撃できる。或朝のこと、一人の中年の婦人がビニール袋を下げて、公園の片隅へ行行って、「おいで、おいで」と呼ぶと、何匹かの野良犬がどこからともなく出て来た。黒、茶、白、の犬たちがこの婦人が持参した残飯を美味しそうに食べ始める。「しっかり食べや」と犬たちに話しかけているこの婦人を見て私の心に喜びが湧きあがって来た。

それから1年位経った或る日、また扇町公園の別の所で、親猫の乳房にすぎる5匹の白、黒、斑の猫の子を見た。猫の母子の近くには、誰かが持って来たのであろうか、ペットフードが紙箱の中におかれていた。猫の姿の見えない時にまたその近くを通ったが、その時にも、ペットフードが入っていた。善意の風は吹き続けている。

（機械・昭和24年卒・扇町教会牧師）

思い出

堂浦 武博



昭和31年当時の理工学部に入學、専門課程は応用化学の高分子化学を選考し、以前から希望していました井本稔先生の研究室にて4回生の一年間お世話になりました。当時の研究室は井本教授以下諸先生のほかに他の大学、企業からの研究員の方々、博士、修士課程の先輩と我々学生6名を加えて30名以上の大所帯であり、いつも賑やかで時には歌声さえ聞え、活気に満ちあふれていました。我々学生は回りに諸先輩が多いので、何んでも教えてもらう事が出来て、まるで20数名の先生の中で勉強させて頂いた様な気がしました。又昼休み等には扇町公園のグラウンドでよくソフトボールの試合をし、楽しいひとときを持つ事が出来たのも大所帯のお陰です。私は当時竹本喜一助手（現阪大教授）の御指導のもとでポリマーの反応の実験を行っており、長時間の反応のためよく徹夜をし、夜食のため外出して、つい遅くなり学校の塀をのりこえて帰ってきた事もしばしばです。

35年卒業当時は企業の求人が多く就職の心配は全くなく無試験でパスし、大変恵れた学生時代でありました。

（応化・昭和35年卒・日商岩井㈱）

壮年時代

中井 成行



入学時から数え早30年、リタイヤの事が気に掛かる。光陰矢の如しとは良く言ったもので、合格発表の受験番号見つけた瞬間がつい最近のように思える。野球、ボートのクラス対抗、御堂筋デモの安保闘争、クラブ活動の合宿練習、

日頃から鍛えてあった徹夜の繰返しの製図、卒論、短い期間であったが、学生時代の懐かしさが一杯頭をよぎる。入社後数年は高度成長期、しかし70年代での公害、保安、石油危機、企業は幾重もの問題解決に追われ、数年前まで構造不況、体質改善に多くの犠牲を強いられた。職場にあっては、役職と言えども昔のように号令、命令で動かさず、訓令でも不足、率先垂範が求められる。新資格制度の導入とか、時には窓際へ容易に追いやられる。家庭にあっては、受験から解放されると独りで大きくなったかのように振舞う金喰い虫の子供族、振込み型給与制度で、銀行が有ればサラリーが受けとれると心得る女房族。十数年後、かつて学生時代を懐かしく思い出したと同様に、現状を顧みることができのだろうかノ壮年男権のルネッサンスを願い、忙しく暮している。

(機械・昭和38年卒・宇部興産株)

レーザープリンタ

倉田 一之



大学を卒業して早いもので22年が過ぎました。現在はレーザープリンタの開発の仕事に携わっています。従来のインパクト式プリンタに比べ、美しい印字が早く、静かに出来るという特徴があり欧米を中心に需要が拡大しています。

最近DTP（デスクトップパブリッシング）と言う言葉が聞かれますが、レーザープリンタはこのDTPを進めるのに欠かせない機器として注目されています。DTPは手軽に高品質の印刷物を得ることを目指しています。最近では両面印刷が出来るもの、および任意の大きさの文字が印字可能なベクタフォントを採用したものが発売されています。今後はカラー化も検討されています。

欧米市場に比べ国内は未だ価格が高いこともあり普及が遅れています。結果として輸出中心の商品となり、又海外に競合するメーカーが少なく日本のメーカーが世界市場の大半のシェアを占めています。貿易摩擦が言われている昨今、少しでも緩和するためにも国内向けの販売を拡大する必要があります。こんなことを考えながら、国内で手がけるに購入していただける価格と、満足していただける機能の実現に取り組んでいる昨今です。

(電気・昭和40年卒・シャープ株)

20才の頃

入江 良広



私が市大に入学した昭和44年当時、全国の大学が学園紛争の最盛期であり、キャンパスは揺れ動いていた。我が市大に於ても本館や講義室が封鎖されており、入学はしたものの授業が出来ず、開始の目途さえ立っていなかった。約半

年後に（つまり後期に入って）授業が開始された訳だが、今振り返ってみると、この半年間が自分の学園生活の中で最も印象深いものの様な気がする。受験勉強から開放され、精神的に余裕も出来、時間に束縛もされなくなったため自分の廻りをかなり冷静に見つめ直すに絶好の機会となった。それまではややもすると周囲の情勢に流されがちだった自身を反省し、又新たなものにも興味を持つ姿勢も培われたのではないかと思われる。クラブ活動にも参加し、その資金捻出のためアルバイトに精を出したりして、様々な人達と話をする機会にも恵まれた。

今、市大のキャンパスを巣立って17年目である。日々仕事に忙殺され、時間的余裕も少ない現在の私にとって、再現出来そうもない「懐しき時代」の思い出である。

(機械・昭和48年卒・文部省管理局教育施設部)

「近況報告」

三船 義照



同窓会の皆様お元気ですか、つ先頃は山下一美教授の還暦のお祝いがあり、私のサラリーマン生活もアツと言う間に10年以上を経過し、その間第2次オイルショックや円高問題等めまぐるしく経営環境が変化しました新しい技術革新や情報化の波が押し寄せてきています。ある意味では我々が大学で研究生生活を送っていた頃の方が、情報通信の分野にも夢があり幸せであったのではないかと考えています。現在の情報通信の分野は技術開発といえども、生産性や品質に重点が置かれパワーゲームによる勝負が行なわれるようになってきたような気がします。さて私共の松下電器では、最近の情報通信の市場成長率が2桁台である事を重視し一昨年より情報機器本部を発足し、ワープロ、パソコン及びワークステーションの本格的な市場参入を行っています。私自身はUNiX-OSの移植開発を担当していますが、MS-DOSやOS/2等を含め基本ソフトはまだ米国のライセンスに支配されているのが現状で今後は半導体のみならずソフトの分野でも日本の技術成長を期待したいと考えています。最後に同期の皆様へ、通信研ゴルフコンペをやりませんか？幹事役は引き受けます。

(電気・昭和50年卒・松下電器産業株)

ゆとり創造をめざして

真粉 克之



11月の連休を控え仕事を片づけていると、職場に思いもよらず大学から電話があり、本通信への投稿の依頼がありました。期日を過ぎての依頼であり急いでいると言われるので、あれこれと推敲できず、今やっている仕事について書いてみたいと思います。

これまで、広島・島根・大阪の各労働基準局、労働基準監督署を転任し、造船・自動車・プレス等それぞれの地での産業を実際に自分の目で見ることができました。

11月はゆとり創造月間として、各企業の労働時間短縮を指導しています。尚署においては、私が赴任してまもなく、長時間労働による急性心不全（過労死）を業務上災害として認定し、労災保険により救済したところであり、また現状の求人難から、よりよき人材を集めるためにも、各企業における労働時間短縮についての関心は高まっています。

働くことが美徳であった時代、資源に乏しく日本人の勤勉性をよりどころとして経済大国になった時代から、休んでばかりいると勤勉を忘れ、それだけでもっていたものは、他の先進国よりもいち早く衰退してしまう危惧する声があるものの、労働環境は着実に変化しているように思われます。

労働基準法が改正され、法定労働時間は1日8時間・1週48時間から、1990年代前半には週40時間となるよう段階的に短縮されていますが、現在の求人難では、地元企業でさえ何らかの形で週休2日制を採っていないければ、見向きもされないというところから、人手不足倒産・高好気倒産を心配する事業主もいます。

今まで事業主に労働時間短縮について話をすると、生産性向上が伴わなければならない話であり、コストが上がった分は誰が面倒みてくれるのか、労働者の方も残業賃金を当てにしており、国に言われてもできる話ではない、という話がでていたものが、最近には時により切実感さえ感じられるようにもなりました。

自らを顧えば、当局も人手不足故か実務以外に管理的職務が加わり、職業性疾患認定要因である加重付加と言えなくもありませんが、こんな時こそゆとりを考え直そうと思っています。

(応物・昭和57年卒・葛城労働基準監督署)

社会にでて3年過ぎて…

野々垣 光裕



私が社会に出た昭和61年は、いわゆる、新入社員が「新人類」といわれた年でした。その年から、はや、3年余り経ち、新人類という言葉も色褪せ、会社生活にどっぷり浸かってきたように思います。

私は現在、三菱電機の生産技術研究所の一員としてエレクトロニクス関連の材料開発に従事しています。最近の社会情勢、例えば、NIEESの台頭より、エレクトロニクス製品は、量より質が重んじられ、開発の周期も益々短くなっています。このような状況の中、効率的な研究開発の進め方と基礎研究によるデータの蓄積がいかに重要であるかを身をもって感じている今日この頃です。

さて、とかく、日常は、仕事に追われ、あくせくしがちですが、たまには、学生時代を振り返って、思い出に耽ったり、先生方や先輩から頂いた助言などを思い出して自分を見つめ直すことが必要ではないかと思います。平井竹次先生の「今まで社会から恩恵を受けてきたことをよく自覚しなさい。社会に出たらかならず還元しなさい。」とおっしゃられたお言葉が印象に残っており、今でもふと思い出します。そして、現在の私は、果たしてどれだけ還元しているだろうか。還元するどころか、ずっと恩恵を受けたままではないかと自覚する度に、赤面する次第です。同期生の皆さん方はどうでしょうか。

最後に、この会報への投稿の機会を与えて下さったことを感謝すると同時に、皆様方の益々のご活躍をお祈り致します。(応化・昭和59年卒・三菱電気株)



工学部正面玄関附近 ('87. 3)

明石海峡大橋

金沢 克義



本州四国連絡橋公団では昭和63年4月に開通した瀬戸大橋に引き続き、現在明石海峡に世界最大の吊橋「明石海峡大橋」を建設中であり、小生は神戸の建設局で工事全般を担当しています。

設計諸元

項目	諸元
形式	3径間2ヒンジ補剛トラス吊橋
ケーブル支間割	960+1,990+960=3,910m
中央径間中央での路面の高さ	海面上 約 96m
桁下高さ	略最高高潮面上65m
塔の高さ	海面上約297m(ケーブル理論頂)
ケーブル直径、本数	φ1.1m×2本
補剛トラス高さ、幅	14.0m×35.5m

項目	2P(舞子側主塔基礎)	3P(松帆側主塔基礎)	
自然条件	水深(m)	44~47	36~39
	最大潮流速 m/秒	3~3.5	3.5~4
支持層	地層名	明石層	神戸層
	土質区分	洪積砂礫層	新第三紀軟岩
基礎	形式	直接基礎	同左
	形状寸法	同筒形 φ80m×高さ70m	円筒形 φ78m×高さ67m
礎	支持地盤高 (T.P.-m)	60	57
施工法	設置ケーソン工法	同左	



完成予想図

本橋は「夢のかけ橋」として昭和28年に故原口忠次郎神戸市長が発案され、他ルートとの誘致合戦、オイルショックによる発注凍結等の苦難を乗り越え、30余年の調査研究期間を経て昭和63年5月に工期約10年、工費約4,000億円の計画で着工されました。

設計上はマグニチュード8.5の地震、秒速80mの暴風、秒速4mの潮流に耐える構造ですが、実工事は1日約1400隻もの航行船舶がある国際航路に接して行っており、安全確保に非常な努力を払っています。現在工事は海中基礎の水中コンクリート打ち、陸上基礎の掘削中であり、上部工は詳細設計中です。

世界の橋梁史上未踏の分野に挑む訳ですから、予想できぬ困難が待ち受けていますが、我国橋梁技術の面子にかけてもやり遂げる覚悟であります。

(土木・昭和46年卒・本州四国連絡橋公団第一建設局)

6年経って思うこと

阿部 眞也



大林組に入社して今年で6年目になる。現在は大阪南港に建つミズノ本社ビル新築工事に従事している。これは地上31階建てで、工期3年の大プロジェクトである。

最近現場にもデータ処理、ワープロ等のコンピュータの導入、コンピュータトランシット(これは大変便利である)、さらに新規入場者教育用のビデオの活用、ビデオカメラでの現場進捗状況の記録及び報告など現場業務のあり方も随分様変わりしてきている。

私なりに現場の仕事とは、その建物がどういった意匠構造、設備設計主旨で建てられようとしているのか、その本質を適確に捉え、それをいかに正確により早く、より安く、そしてより安全に建てるか、その工法を編み出し実行する事が現場業務だと思っている。

ただ最近建設業界も内需拡大で受注が大幅に伸び、まれに見る好景気となっているが、その分職員の人手不足となり、そのしわ寄せが残業、日曜出勤と言う形で現われている。すると現場と家との往復だけとなり、視野の狭い世界しか見えなくなってしまう。幅広い人間になる為には、全く分野の違う世界にも積極的に参加していく姿勢が大切だと、6年立ってつくづくそう思っている。

(建築・昭和57年卒・株大林組)

学習塾を経営して

富永 茂樹



早いもので大学を卒業して7年半が過ぎ、私も若者とは呼べない年となりました。現在私は学習塾を自営しており、小規模ながら小中高生相手に（中学生中心）日々奮闘しています。工学部出身としては、ユニークな職業を選んだ変わり種だと思いますが、これも一つの生き方、自分に合った天職と自負しています。

さて、私の塾は1クラスが3～4名の少人数制で、殆どマンツーマン授業、生徒の学力も様々です。「地元地域社会に密着したアットホームな塾」というのがキャッチフレーズですが、事実よく教室から一歩外へ出て、近所のスーパーマーケットへ行く途中、生徒の親とバッタリ出合ってしまう、そのまま立話という光景になってしまいます。

学習塾を始めて8年目、この仕事を続けていく上で一番大事なことは何か。それは人間関係ではないでしょうか。（他の職種にも通じるとは思います）生徒から気に入られ、生徒の両親から信頼されて始めて、私どものような小さな塾は成り立つのです。その上に乗っかって次に「教えるテクニック」となってくるでしょう。こっちは学生のアルバイト教師とはプロ意識がちがうんだ、と自分に言い聞かせつつ生徒に接していますが、教えられている生徒の方はどのように感じているのかな？

最近はこの世界も企業化された大規模塾の進出が激しく、私共のような個人経営の零細教室では、諸にその煽りを受けることがままあります。今春も、突然何の前ぶれなしに、うちのかわわい塾生数名が、大手学習塾にもっていかれるという事態が発生しました。競争的市場原理の中で、これも仕方のないことかもしれません。

現在一億総教育評論家といわれる世情、新聞紙上・マスコミなどで、様々な教育論争が戦われています。まあ“日本の教育を斬る”のも結構ですが、現場の生々しさを体験してから物申してほしいと言いきるのは、私の僻みからでしょうか。

いずれにせよ、この逆風の中でもなお、下町の人情を大切にしたいふれ合いを追い求めつつ、教室という小さな舞台を借りて、これからも頑張っってゆこうと私は考えているのであります。市大工学部卒業生の名に恥じぬよう……。（応物・昭和57年卒・堺そうご学習塾）

一社会人の独り言

奥田 東吾



学校を卒業して半年が過ぎ、今になって学生時代の大切さを感じています。その気持ちを在校生へのメッセージとして書いてみます。

学生時代というものは、「試験」というものだけ上手こなしていれば結構自由に日々を送れるものだと思います。それだけにともすれば安易に時を過してしまうものです。私もそうでした。しかし、社会人になっていろいろな人と会い、様々な考え、価値観を持った人と仕事をする様になりました。その時に相手の考えを理解できるだけの柔軟さがどこまで自分にあるか？確かに仕事をしていく内には失敗しながら覚えていくものなのでしょうが、その基礎は学生時代に培うべきものであろうと考えます。その為に時間が自由に使える学生時代により多くの分野（自分の専門分野以外）の事について興味を持って取り組み、出来れば1つは熱中できるものを見つけて下さい。高尚な事でも構わないのです。目的意識を持って日々を送る事がその人を磨くと思います。そして自分の考えをぶつけて議論できる友人も見つけて欲しいと思います。

とりとめもない文章になりましたが、素直な気持ちです。参考にして頂ければ幸いです。

（土木・昭和62年卒・西日本旅客鉄道株金沢保線区）

今期の新評議員（平成元年卒）および交代者は以下の通りです。クラスメートの各位はよろしくご協力下さるようお願い致します。

学 科	平成元年卒	交 代
機 械 工 学	奥田 泰生 田中 基博	
電 気 工 学	石橋 孝一 前島 章浩	林田 茂樹（62年卒）
応 用 化 学	佐崎 元 高松 洋恵	石山 稔雄（30年卒） 倉掛 昌裕（61年卒）
建 築 学	河合 延昭 大西 祥代	
土 木 工 学	井上 孝行 寺本 譲	堀川都志雄（44年卒）
応 用 物 理	巽 清和 谷口 正実	

事務局年報

('88・12～'89・11)

北田 忠義 (物36) 田守 芳勝 (物38)
石黒 英治 (物40) 茶谷 修治 (物50)

監事 保坂 博通 (物34)

(3) 第9期事業計画

- (イ) 同窓会々報第8号 ('89) および第9号 ('90) の発行。
- (ロ) 特別基金の積立継続。
- (ハ) 同窓会セミナーの開催 ('90年、於工学部学術情報交流センター、同窓生対象)。
- (ニ) 大学行事 (ボート祭、市大広報等) への協力。
- (4) 第9期経常費予算 (万円)

'88年12月…第9期会長候補 (応物) 内定 (1日)。専任事務局員の後任募集を開始 (9日)。

'89年1月…専任事務局員および補助員の採用条件の整備完成 (26日)。専任事務局員の後任予定者選定 (27日)。

2月…第6回評議員会をホテルコーホー (道頓堀御堂筋西入ル) にて開催し、下記の(1)～(4)の事案を決定。同時に、初企画の同窓懇親会 (理事・評議員の親睦のみならず、有志会やクラス会の場として活用できる懇親会) を併催 (4日)。

(1) 第8期 ('87・1～'88・12) 収支決算報告

(イ) 経常費収支決算表 (円)

収 入		支 出	
終身会費	7,480,000	評議員会	204,500
預金利息	195,700	第6号名簿	6,724,290
雑収入	62,500	第7号会報	933,256
第6号名簿代	4,440,100	事務局費	3,276,936
協賛広告代	1,264,800	大学行事協力費	537,350
		借入金返済	450,000
		特別基金積立	5,061,822
		次期繰越金	△3,745,054
合計	13,443,100	合計	13,443,100

収 入		支 出	
終身会費	700	評議員会	25
利 息	8	第8、9号会報	210
雑収入	4	事務局費	404
		大学行事協力費	60
		特別基金積立	201
		セミナー	8
		収支差額	△196
合計	712	合計	712

事務局員の後任者内定 (20日)。

3月…昭和63年度工学部送別式および祝賀鏡割に繁澤会長、植木副会長他理事有志が出席 (23日)。平成元年度学部・大学院合格者へ当会案内資料および終身会費払込み要請書を配布 (24日)。

4月…後任事務局員の真室さん初出勤、引継開始。岸節子さんに退職謝礼を支給 (3日)。市大広報第8号を学外現事・評議員へ郵送 (20日)。

5月…故藤井太一名誉教授 (7日ご逝去) に御香典と弔電、第9期の特別基金を積立 (10日)。

6月…専任事務局員への夏・冬一時金の支給案を決定 (23日)。

7月…市大広報第9号を学外の理事・評議員へ郵送 (25日)。

9月…同窓会報第8号の編集委員会を開催 (8日)。

11月…第8号会報の校正完了。

(ロ) 貸借対照表 ('88年12月末現在)

借 方		貸 方	
振替口座	18,314	昭和61年度累計剰余金	7,297,732
普通預金	7,647	第8期剰余金	△3,745,054
定期預金	23,452,000	特別基金(元利)	32,025,621
有価証券	3,968,642		
未収利息	8,131,696		
合計	35,578,299	合計	35,578,299

(2) 第9期理事会役員改選

会長 繁澤 孝 (物32)

副会長 植木 正富 (土24)

理事 東田 和郎 (機20) 大月 正雄 (機24)

人見 宗男 (機31) 南斎 征夫 (機39)

東 恒雄 (機41)

大給昭二郎 (電23) 中島 弘 (電25)

布施 規夫 (電28) 細川 省一 (電33)

南 繁行 (電45)

井口 悌三 (化28) 大橋 邦夫 (化32)

玉垣 誠三 (化39) 大嶋 寛 (化49)

坂内 幾男 (建24) 都築 周 (建29)

多胡 進 (建34) 赤崎 弘平 (建45)

井上 保 (土26) 園田恵一郎 (土36)

小林 治俊 (土45) 日野 泰雄 (土50)

◎ご住所・ご勤務先の変更は直ぐ事務局へご連絡下さい!!

◎終身会費の未納の方、

早急にお払い込み下さい!!

納入の確認および振替用紙の請求は

☎ 06-605-2789へ。

大阪市立大学工学部の電話番号〔06-605-(下記番号)〕(1989.10.1.現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
福田 武人 2660	堤 四郎 2676	平井 竹次 2693	川村 純夫 2706	園田恵一郎 2722	村井 昭 2738
元木 信弥 2661	鈴木 裕 2677	小槻 勉 2694	木本 英爾 2707	小林 治俊 2723	西村 仁 2739
逢坂 勝彦 2661	南 繁行 2760	五百井正樹 *	木内 龍彦 *	鬼頭 宏明 *	中山 正昭 *
野邑 奉弘 2664	黒田 輝 2677	澤井圭二郎 *	日置興一郎 2708	上林 厚志 *	曾我部 伸 2740
西村 伸也 *	志水 英二 2678	太垣和一郎 2695	坂 壽二 2709	高田 直俊 2724	森 雄造 2741
東 恒雄 2666	重田 和夫 2679	幸塚 正児 2696	那谷晴一郎 *	望月 秋利 2726	美馬 宏司 2742
布部 誠 2665	松下 賢二 2761	玉垣 誠三 *	村上 益美 *	東田 淳 2725	藤井 康夫 *
上田 祐男 2667	高橋 秀也 2679	荻野 健治 *	成瀬 哲生 2710	大島 昭彦 *	大倉 熙 2743
南斎 征夫 2668	青笹 正夫 2681	大津 隆行 2697	太田 洋一 2711	本多 淳裕 2727	笹沼 道雄 2744
深井 完祐 *	草開 稔 *	山田文一郎 2698	新居 洋子 *	山田 優 2728	石黒 英治 *
吉岡 真弥 2767	前川 義治 2763	圓藤紀代司 *	大倉 良司 *	貫上 佳則 *	人見 宗男 2745
玉村謙太郎 2669	山下 一美 2682	松本 章一 *	多胡 進 2712	真嶋 光保 2729	北田 忠義 *
上神謙次郎 2662	細川 省一 2683	原納 淑郎 2699	杉山 茂一 2713	西村 昂 2730	串部 宏之 *
森元 時夫 2670	岡本 次郎 2684	矢野 元威 2700	中野 明 *	岡村 治子 2731	横田万里夫 2747
若林三記夫 *	浜 裕光 *	大嶋 寛 *	福田 晴慶 2714	日野 泰雄 *	谷本 脩 2748
守田 栄之 2671	中島 重義 2683	小郷 良明 2701	三輪 雅久 2715	小田 一紀 2732	勝俣 五男 2879
秋山 貞夫 2672	藤井 知生 2685	木下 雅悦 2702	濱田 学昭 2716	角野 昇八 2733	三村三木夫 2879
瀧山 武 2672	渡辺 博己 2686	仲矢 忠雄 2703	赤埜 弘平 *	重松 孝昌 *	廣重 昇 2875
中山 守 2673	森下 昂 *	国枝 紀夫 *	斎藤 和夫 2717	中井 博 2734	増岡 俊男 2877
	建部 涉 2687	山内 清 *	田中 康夫 2718	北田 俊行 2765	
	奥本 隆昭 2688	三浦 洋三 *	三輪 嘉男 2719	ルイガ ヒロコ イテノセ 2735	
	藤原直賀人 2689	藪頭 健吉 2884		明橋 克良 *	
	北村 泰彦 3081	椎名 敦 2885			事務室等
	三谷 七郎 2877	真野 俣一 2882			教 務 係 2653
	中川 吉郎 2880	笠井 佐夫 2886			庶 務 係 2651
					図 書 分 室 2657
					守 衛 室 2096

編集後記

比較的暖かった今年の晩秋も、師走が近づくとつれ朝夕はめっきり寒くなりましたが、お元気でご活躍でしょうか。母校では、来春、理工分離以来初めて2学科が増設されます。そこで、それらの概略を受験生用パンフレットから抜粋して掲載しましたのでご一読下さい。また、年々活発な親睦会を催している関東支部の組織概要と連絡先を掲載しました。関東地方に就職・転勤の会員諸兄姉は参考にして下さい。しかし、昨春定年をお迎えになった安藤慶一(電気)、下島正孝(建築)両先生のご寄稿を頂けなかったのが残念です。

当会の事務局員として過去5年間、会報および名簿の発行等にもご活躍下さった岸節子さんが、ご健康上の理由から本年4月に退職されました。この欄にて改めてお礼申し上げます。幸い後任には、真室京子さんと云う当会事務局にふさわしいベテランをお迎えでき、初めてのこの会報の発行もほぼ例年通りに実施できました。

本年はオゾン層の破壊や気候の温暖化などグローバルな環境問題がクローズアップした感がありますが、この冬の寒さはどうなるのでしょうか。ご自愛下さい。

支部設置規則 (設定：昭和62年2月21日)

- 第1条 支部を設置するときは、(イ)支部の名称、(ロ)支部長候補者名、(ハ)支部規則、(ニ)支部事務所々在地および支部会員名簿を添えて会長に申し出、理事会の承認を得る。
- 第2条 支部の費用は支部会員で支弁する。
- 第3条 第1条の各項に変更があったときは直ちに会長に報告する。
- 第4条 支部を解散するときは、支部長がその理由を会長に報告し、理事会の承認を得る。
- 第5条 理事会は、本会の体面を汚し、または秩序を乱す行為のあった支部に対し、理事会の議決を経てその承認を取り消すことができる。

編集委員

- 南斎征夫(機39) 細川省一(電33) 大嶋 寛(化49)
- 赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 北田忠義(物36)
- 人見宗男(機31)